

# 平成 30 年ホヤ類調査結果速報 No. 6

平成 30 年 12 月 21 日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

12月17日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物および浮遊幼生の調査を行いました。

## 結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は10月以降ほぼ横ばいです(図3上)。付着個体数はホタテガイ1枚あたり18.7個体で平年を下回っています(表1、図3左)。
- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着重量は10月以降増加が続いています(図3下)。付着重量はホタテガイ1枚あたり111.5gであり、平年を下回っています(表1、図3下)。
- 今年は7~8月の付着個体数の増加が著しく、大量付着が懸念されましたが、8~9月に大きく減少し、以後は付着個体数、付着重量ともに平年以下で推移しています(図3)。今年の夏季にヨーロッパザラボヤの付着数を減少させる環境要因が存在していたと推測されます。
- 5mm未満の個体は見られず(図2)、水温も低下していることから、今年のヨーロッパザラボヤの繁殖は終わったと考えられます。

図1 耳吊ホタテガイ(左)とヨーロッパザラボヤ(右)平成30年12月17日 八雲地区



上層

中層

下層



耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池 TEL：0138-83-2893

※この調査は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

# 耳吊りホタテ貝付着物調査

【調査月日：12月17日、調査場所：八雲沖 水深約30m、上中下層 各5枚】

ホタテガイを上層、中層、下層ごとに3枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を採取しました（図1）。ヨーロッパザラボヤの平均個体数はホタテガイ1枚あたり18.7個体、平均サイズは37.2mmです（図2、表1）。前回の調査（11月24日実施、20.0個体、32.8mm）と比較して個体数はほぼ横ばい、平均サイズは大きくなっています（図2、図3上）。5mm未満の個体はほとんど見られず、新たに付着した個体は少ないと考えられます（図2）。付着個体の成長に伴い、付着重量は111.5gと先月（78.9g）の1.4倍となっています（表1、図3下）。付着個体数、付着重量ともに平年よりも少ないですが、今後、付着個体の成長に伴い、付着重量は増加していくと考えられます（図3下）。栽培水産試験場の実験により、水温下降期は9℃未満でヨーロッパザラボヤの産卵が抑制されることが示されています。調査海域の水温は、0m：7.5℃、10m：8.9℃、20m：9.2℃、30m：8.1℃であったことから、広い深度でヨーロッパザラボヤの繁殖は抑制されていると考えられます。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：平成30年12月17日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着状況	上層	中層	下層	平均
全付着物重量	175.6g	175.g	189.0g	179.9g
ヨーロッパザラボヤ	27.5g	142.5g	164.6g	111.5g
その他	148.1g	32.5g	24.4g	68.4g
ヨーロッパザラボヤ個体数	6.3個体	17.7個体	32.0個体	18.7個体
平成29年12月(H29.12.24)の個体数	15.0個体	38.0個体	50.0個体	34.3個体
平成28年12月(H28.12.5)の個体数	27.7個体	55.3個体	52.3個体	45.1個体
平成27年12月(H27.12.14)の個体数	29.3個体	66.7個体	73.0個体	56.3個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：平成30年7月～12月）

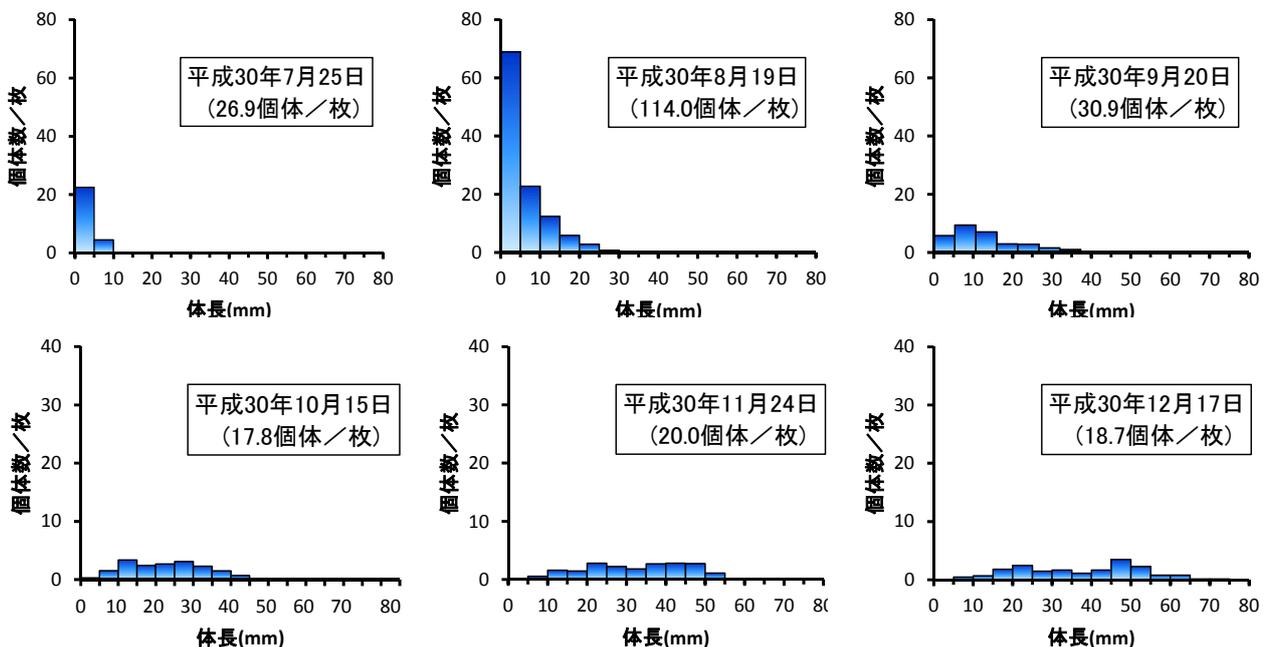
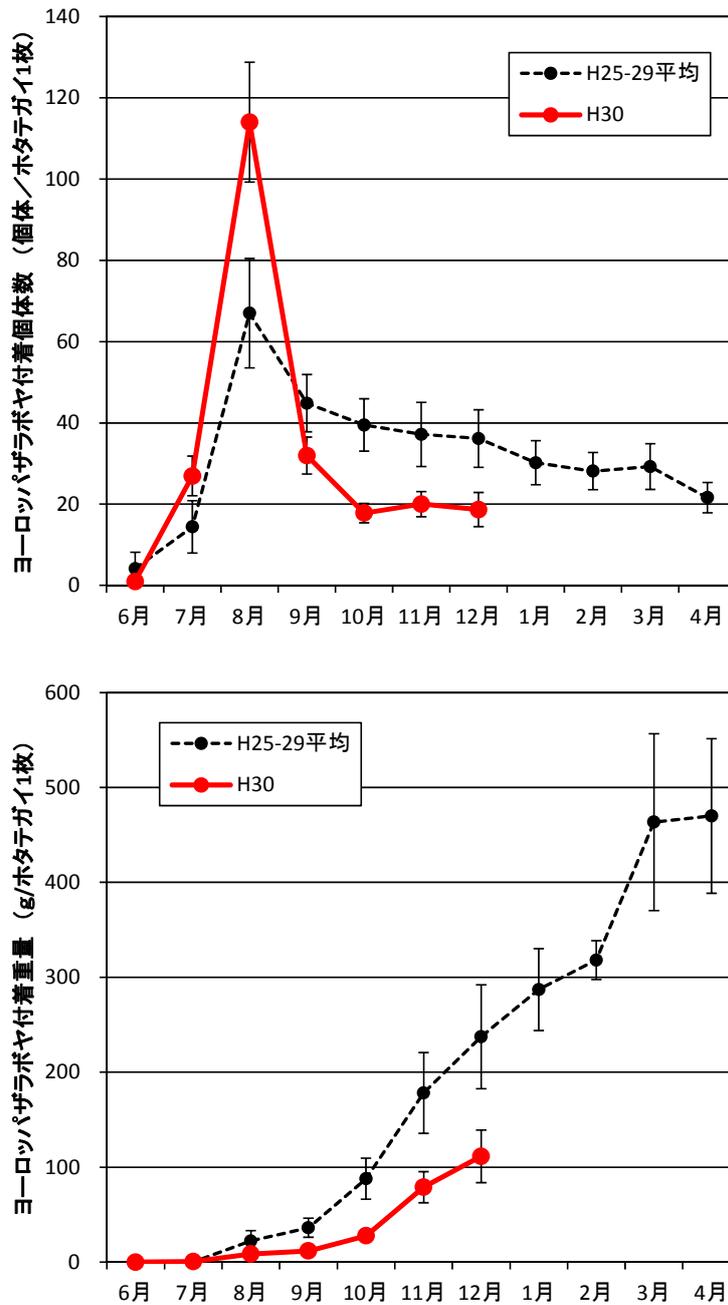


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



左図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

右図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去5ヶ年（H25～29年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が中心となっています。付着重量は10月～翌1月にかけて急激に増加します。今年は8～9月の個体数減少が著しく、付着個体数は過去5ヶ年よりも少なくなっていますが、10月以降は横ばいで推移しており、それらの個体の成長により重量は増加していくと考えられます。